

本庁舎移転に関する市民説明会 有明会場

日 時：平成 31 年 2 月 5 日（火） 午後 7 時 00～8 時 40 分

場 所：有明地区公民館 多目的ホール

出席者：下平市長、武石副市長、企画政策課（樺山課長、西補佐）、総務課（山田課長、河野危機管理監）、財務課（仮重課長）、地域振興課（竹田課長）、建設課（豊倉推進監、鮎川補佐）

参加者：122 名

【開 会】配布資料確認、日程の説明

【市長挨拶】下平市長あいさつ

【説 明】樺山課長

【質疑応答】

Q 1：資料の Q & A に有明本庁から志布志地区への移動に時間を要するとあるが、約 10 分程度が時間を要するというのか。また、13 年前に合併して本庁舎を有明町に置いたが、その時何故、志布志町に本庁舎を置かなかったのか。それから今回の移転で有明支所に本庁の窓口機能が残るが、市長への伺いや決裁業務等に時間を要するのではないのか。南海トラフ等の地震が心配されるが、志布志支所の庁舎で大丈夫なのか。本庁舎移転に関する費用も現在試算中ということだが、未だに示せない理由は何か。メリット、デメリットがはっきりと示されていないので、判断のしようがない。

A 1：移動時間に 15 分～20 分ほどかかるというのは、あくまでも一つの目安として示している。移動に時間がかからないから良いというものではなく、行政と商工、行政と港湾などと連携をしっかりと保つためにはどこに本庁舎が必要かということである。また、合併時に本庁舎が有明町に置かれた理由について、当時の合併協議会には 2 つの小委員会があり、1 つは新市の名称を協議する委員会、もう 1 つは本庁舎をどこに置くかを協議する委員会であった。名称については「志布志市」に決まったが、本庁舎の位置については、協議会に大崎町も入っていたため、中心地の有明町に決まったところである。次に決裁業務等で時間のロスが生じるという指摘について、まちの活性化には人の行き交いが必要であり、逆に本庁舎が志布志支所にあることで、人と人の交流、ヒト・モノ・カネ・情報の交流が生まれる。有明本庁には年間 5,000～6,000 人が訪れるが、食事をする場所があまりない。研修等で訪れる時はどこで食事を済ませて、何時に打合せをするという基本的なことがここではできない。このことも時間のロスにつながるのではと考える。また、災害には南海トラフなどの地震や土砂災害等があるが、災害時には市長は本部長、副市長と教育長は副本部長となる。南海トラフ地震による津波が発生した場合には、災害対策本部が文化会館に設置され、有明本庁からだとも 15 分～20 分だが、災害発生時は 20 分～30 分かかるかもしれない。志布志支所の場合だと津波の場合は港を目視でき、時間差もないため、しっかりと指示が出せる。次に本庁舎移転に係る費用について、今の試算では、副市長室の設置や執務室の仕切りなどが 1 千万円程度で、議場の改修等については、現在積算中である。そのほか空調関係については、移転に係るな

く更新が必要な時期が来ており、本庁舎移転の経費と区別して示していきたい。最後にメリット、デメリットについては、今申し上げた内容になるのではないかと思うが、以前、地方行財政に詳しい鹿児島大学の教授に本庁舎が有明庁舎にあった場合と志布志支所にあった場合の様々なデータ提供を依頼したことがあったが、どこの自治体も少子高齢化が進む中で、このまま本庁を有明に置いたままでは、まちの疲弊は早くなる、国や県の機関、銀行、病院、道路のアクセスなど市街地がしっかり形成されている場所に本庁舎はあるべきと指摘された。

Q 2 : 市長の今の話では、合併協議会に大崎町も入っていたが、途中で離脱したため、有明町に本庁舎を置くという理屈にはならないということか。

A 2 : 大崎町を含めた4町の協議会で有明本庁に決まっていたが、離脱した後、本庁舎の位置についての議論はなかった。

Q 3 : それから13年も経つということか。先ほどの地震の話で市長は志布志支所でも問題ないということであったが、東北大震災の津波を見た時、行政の中心は絶対に下にあってはいけないと思った。消防署も高台に移転し、警察も移転したいが移転できないという状況なのではないか。本庁舎を高台に移すのであれば納得するが、志布志支所に一旦移してから高台へ庁舎を建設するというのは、二度手間、三度手間ではないか考える。

A 3 : 少子高齢化で国の交付金等も削減され、財政的に大変な状況という理由もあるが、志布志支所の標高は12mで、国が想定する津波高は7mである。長期的な計画では庁舎建設のための基金を造成し、将来的に本庁舎を建設する考えである。今、本庁舎を数十億かけて建設することは財政的にも厳しいため、地理的優位性のある志布志支所や民間の施設を活用して、3つの地域の活性化を図っていこうとする取組である。

Q 4 : 志布志支所の標高はどれぐらいか。

A 4 : 志布志支所の駐車場は標高12mである。

Q 5 : 津波の心配はないか。

A 5 : 国の想定では7mである。

Q 6 : 市長室ができる3階部分は標高20mにも満たないのでは。

A 6 : 串間市の国の想定は15m、志布志市の想定とは違う。

Q 7 : 東九州自動車道と都城志布志道路が交わるころは、降りずにそのまま乗れるのか。

A 7 : 東九州自動車道と都城志布志道路はジャンクションでつながっている訳ではない。インターチェンジから一旦降りて、一般道を走ってから乗る形となる。

Q 8 : 3町が合併する時の公約があると思うが、今回の本庁舎移転は公約に違反することにはならないのか。また、新しい庁舎建設のためのビジョンや財源があれば、安い年金で生活し、施設に入りたくても入れない高齢者や希望する学校に入りたくても家庭の事情で進学をあきらめる子ども達のために社会保障制度の充実を図ってもらいたいと思うが、どう考えているか。

A 8 : 3町が合併して志布志市になったが、これまで12年間、特に大きなメリットはなかった。それは何が原因かという、一つは税収の問題、これが今ほとんど変わっていない状況であ

る。しかし、これから志布志港が整備されれば固定資産税等の税収が見込まれる。合併する前の税収は、志布志町が約 21 億、有明町は約 8 億、松山町は約 2 億 7 千万円であり、今と比較しても 2 億円ぐらいの影響しかない。首長というものはどのようなまちづくりを行っていくのかを示したビジョンをしっかりと持ち、市民に賛否を問わなければならない。私はこのままではまちの活性化は図れない、せつかく合併して志布志市となった以上は、次の世代のために何をすべきかという思いで市長に立候補した。トップとしてまちの活性化のために本庁舎を移転するということを公約に掲げ、取組を進めているところである。社会保障については、国が消費税の増税分を社会保障にまわしてくれれば心配はないが、果たして国民にメリットがあるのかという心配もある。庁舎建設については、長期計画で検討していくことにはなるが、市民の負担を増やさないためには、まちの活性化が必要で、まちを活性化させるための取組として、本庁舎を移転しようとするものである。

Q 9 : 庁舎を作るビジョンも大切だが、これからの高齢者や子ども達に対するビジョンの方を先に考える必要があると思うが。

A 9 : 子育て支援や緊急医療体制、障がい者が安心して暮らせるまちづくりなど、これらの取組についてもしっかりとビジョンを掲げて進めている。

Q 10 : 市長は「住んでよかったまち」を掲げている。そのためにも未来の宝である子ども達のためのビジョンを考えていただきたい。

A 10 : 「行ってみたいまち、住んでみたいまち、住んでよかったまち」にするために市役所全体で取り組んでいるところである。

Q 11 : 先ほどの市長の話では、本庁が有明町にあった場合と志布志町にあった場合の経済効果について、志布志町にあった場合の方が効果が高いという説明であった。商工会、漁協、港湾、商店街、銀行などの関係機関の大部分が志布志地域にある。合併協議会で有明に本庁舎を置くことになったが、県内の合併状況を見ると、鹿屋市や霧島市、曾於市などもそうだが、人口が集中しているところに本庁がある。今後志布志市が発展するためには核となる建物が必要で、そうしないとヒト・モノ・カネが鹿屋市、都城市に流れていく。そうならないように本庁舎を志布志支所に移転して、新たなまちづくりをお願いし、志布志市全体の活性化を図るべきと考える。

Q 12 : 今さら合併時の意見が通らなかったから、というのは移転の理由にはならない。これから先のことを議論すべき。

Q 13 : 志布志支所に本庁舎を置くことについて、地震による津波の問題はないという話に聞こえたが、ハザードマップを見ると支所周辺はほとんど海水に浸かる。まちの方向性を定めるうえで、港や市街地の近くで、あらゆる判断をしていく必要があるとしているが、何に基づいてこのことが言えるのか。有明町に本庁舎があるが、今でも十分動いており、市街地の近くであらゆる判断しなければならない理由が分からない。

A 13 : ハザードマップの標高分布を見ると、志布志支所一帯は標高 10~15m となっている。津波の問題はないという発言はしていない。

Q 14 : 津波により道路は寸断され、海水は上へ這い上がる。道路が寸断されれば動きようがない。

A14：国道については津波で寸断される可能性は高いが、逆に有明町の本庁舎から災害対策本部である文化会館までの道路が寸断されれば行きようがないという問題も生じる。災害対策本部では警察や海上保安署等が1箇所集まり対策を練らなければならない。文化会館からは津波の様子が確認でき、そこから本部長として指示を出していく必要がある。

Q15：今回の市民説明会は、単なる報告会のような気がする。志布志市が誕生して13年になるが、これまでの志布志市の発展について、市長の率直な評価を示してもらいたい。また、市政の発展とは、これまで志布志市が発展してきた中で、今までできなかったこと、これから先やりたいことを引き続き実施していくことが市政の発展につながると考える。今回の本庁舎移転は将来に借金を残すようなことになるので、それよりも市民のためになることに費やしてほしい。

A15：トップは方向性をしっかり持って市政に取り組むべきと考える。まちの活性化のためには、どう取り組むべきかが重要であり、現在、市の借金も相当あるが、職員に対しては「入るを量りて出ざるを制す」を念頭に歳入をいかに増やして、歳出を抑えていくのかということやスクラップ・アンド・ビルドによる事業の見直しなどを含めて、民間感覚で市内最大のサービス企業という意識改革を全課体制で取り組んでいる。このことも本庁舎移転に関わる私の大きなビジョンの一つである。職員が現場に入り込み、農業や商業など、それらに関わる人達に寄り添いながら現状を把握して、いかに国の補助金を引き出していくかが重要。市長に就任してまもなく1年が経つが、職員の対応が良くなってきているという声を聞く。このことは1つの事業に担当者1人が携わるのではなく、2～3人が関わりを持つという係制からグループ制へ移行したことによるものだとして認識している。定員適正化計画に基づく職員数の減により、これからはグループ制の導入が必要になってくる。合併してこれまで13年間の志布志市の発展に対する評価について、港や道路の発展などについては、先人達の相当な御苦労があったことであり、国県の事業としてこれまで取組がなされてきた。これまで相当良い流れであったと評価している。

Q16：本庁舎移転に係る財源の確保がなされていないように思えるが、市民に対して将来的な負担をかけないようにすべき。どう考えているか。

A16：「入るを量りて出ざるを制す」を基本に次の世代に借金を残さないよう、企業感覚でしっかりと取り組んでいく。

Q17：志布志市に転居して10年になるが、今日までの市民説明会の全てに参加してきた。市長の進める移転計画の概要は認識したが、具体的に市民としてどうすればよいか、市民に求めるものは何かあまりはっきりしない。予算のことは分からないので、最終的に責任ある議会に託すことしかできない。本庁舎を有明町から志布志町に移すには相当の覚悟と相応の経費がかかる。「痛みなくして得るものなし」と言うように、本庁舎移転により効果が得られると市長は言うが、その効果を得るため、市民の負担・協力は何か必要なのかをはっきり示すべきと考える。合併当時は相当な苦労があったようだが、10年先、20年先のまちづくりそのものをどのように捉えているかまでは、当時は分からなかったと思う。志布志市のまちづくりの基本理念は「志あふれるまち」であるが、本来は「産業経済」だと思う。志布志市

の恵まれた自然環境には有数の農林水産業があり、志布志港がある。合併当時は、基幹産業である農林水産業が盛んな有明町に本庁舎を置くことで良かったと思うが、港や道路が徐々に発展してきたため、今回まちづくりの拠点を志布志支所へ移すということは賛成である。説明にもあったようにこれからのまちづくりを見据えての移転としているが、これまでの港や道路の発展については、前市長の3期12年の成果でもある。下平市長も職員や議員時代に共に苦労してきた。これまでの関係者の苦労に感謝と敬意を表しながら、そして市民が仲良くやっていってほしい。

A17：本日の資料にもあるように志布志市の発展ためには農水・畜産業の振興、商工観光事業振興、港湾・運輸関連事業振興、近隣自治体・関係省庁との連携推進、企業誘致促進、これらの取組が必要である。3町が合併して志布志市が誕生した訳であるので「おらが町」ではなく、市としてどう発展させていくのかを議論していかないといけない。志布志町役場職員を経て、合併と同時に議員を2期務めさせていただいた。前市長や国・県など色々な方々のおかげでまちづくりがなされてきたと認識している。志布志港の今日の発展も先人達がそれを夢見て立ち上げてくれたことに感謝している。だからこそ、これからのまちづくりをどのように活かしていくのかが、私達の使命でもある。港と道路網の開発が同時に進む自治体は他にはほとんどなく、九州や県の市長会でも他から羨ましがられるが、その先を見据えた取組を志布志市として行っていく、ただそれだけである。本庁舎を移転することで良い方向でまちづくりの議論が進み、例えば小学生・中学生・高校生が将来、志布志に帰って来たくなるようなまちづくりのために今何をすべきかを議論するなど、しっかりとビジョンを持って取り組まなければならないと考える。

Q18：これは1つの提案であるが、志布志支所に本庁を移転した後、有明支所に副市長格の支所長を配置し、農林水産業関係の権限を与える特別支所のような体制にできないか。

A18：所信表明でも旧町の表現ではなく、志布志市の有明地域、松山地域、志布志地域にしているように述べている。町という分けた考え方でなく、それぞれの地域の特性を活かしたまちづくりを真剣に取り組んでいきたいと考える。

Q19：市長は先ほどからグループ制を導入する、全課で取り組むと述べているが、そのために本庁舎を移転し、市長部局を2つに分けることは大きなデメリットになると思う。中期計画でいくと市長部局が一箇所に集約されるのは本庁舎移転後の5年後になっているが、どこにどの部署が来てというような具体的なものが示されていない。短期計画で庁舎を改修するというのが、本庁を移転しても保健所が使用できない可能性もあり、5年後の具体的な構想がないと、改修費の積算もできないと思う。また、津波発生時に志布志支所からだと目視できるというが、夜中は見えない。その辺りをもう少し考えて発言してほしい。

A19：短期計画では2021年1月1日の移転としているが、これは議会の承認を得ることが前提である。中期計画の5年はあくまでも目安であり、できるだけ早い時期に集約したいと考えている。長期計画は庁舎建設のための基金を造成しているという考えである。現時点で議会の承認を得ないまま、中期計画における保健所や民間施設の活用などの確約はとれない。それぞれの計画を進めながら検討していく。

Q20：中期計画で市長部局が全て移転する時に、施設が不足して、財政を圧迫するようなことにならないか。

A20：そのようなことがないように、しっかりと計画を立てて取り組んでいく。

Q21：現在、志布志支所を利用しているが、駐車場が狭く困っている。管理部門や港湾商工課が移転することになれば、なおさら利用しづらくなってしまふ。その辺りはどのように考えているのか。

A21：現在、職員用の駐車場が 20 台分ほどあるが、職員用は文化会館に移し、その分を来客用として使用する。

Q22：スケジュールでは、今年の 6 月議会に事務所の位置の変更議案等を提案するとしているが、合併して 13 年が経過し、これまでの議会でも再三議論され、本日も様々な議論があった。これを決着させるために住民投票を行う考えはないのか。4 月や 7 月に選挙もあるが、その折に住民投票を行い、その結果を踏まえて議会に提案したらどうか。

A22：議会の承認を得る前に住民投票はできない。議会がしっかりと判断するので、6 月議会に提案して、議員各位に説明していきたい。

Q23：議会への提案は、本庁舎を移転するための条例改正等であるが、その前に移転する、しないの住民投票をしたらどうかということである。

A23：それは全く考えていない。市民の代表である議会に提案して、対応していく考えである。